

「定置網漁業の漁師になって」 — 漁師になって3年間。いろいろ感じたこと —

新湊漁業協同組合
東海勝久

1. 地域の概況

富山県は、本州中部の日本海側に位置する。私の住む新湊市は、富山県海岸線の中央部に位置し、漁場である富山湾は、海脚と海底谷が複雑に入り込んで好漁場を形成している。

2. 漁業の概況

新湊漁協において営まれている主な漁業は、定置網漁業、小型底びき網漁業、刺網、いか釣、べにずわいがにかごなわ漁業、ばいかごなわ漁業である。平成11年における組合員数は、正組合員数344人、准組合員数217人の561人である。漁業経営体数は79経営体で、漁業種類が多いことから、県内で最も魚種が豊富な地域である。平成11年の漁獲量は、5,945トン、水揚金額は約25億円であった。

そのうち、私の所属する定置網は、瀬中網漁業という大型定置網であり、15人で操業を行っている。春はホタルイカ、夏はアジ、秋はカマス・アオリイカ・フクラギ（ブリの当歳魚）、冬はブリ・スルメイカを主に漁獲している。

3. 研究・実践活動課題選定の動機

平成10年の夏、新湊の職業安定所の紹介で、私は新湊漁協の瀬中網漁業に雇ってもらうことになった。それまでの私は、中学を卒業し、県内の高校に進学したものの、1年ほどで自主退学し、その後、運送会社、飲み屋に勤めた。その職も辞めたあと、富山県氷見市の小型定置網に半年ほど従事したことがあった。その時の雰囲気楽しかったこともあり、ぜひ今度の仕事も漁業関係に就いてみようと思ったことが今の職場に就くきっかけとなっている。

しかし、私のように漁業を職業として選択する者がいる一方で、漁業に就業する人が減少するという、いわゆる後継者不足が問題になっている。そのためか、私の職場に限らず漁業者には高齢者が多い。

漁業を今後も存続させていくためには、若い力が今後ますます必要になってくると思う。そこで、後継者問題に対して自分にも何かできないかとの思いから、まず手始めに、漁業者の年齢構成を調べることによって、今後の変化の傾向を調べて見ることにした。

また、私が今の定置網に従事して3年が経過したが、それまで漁業に縁のなかった者から見た「漁業の良い点・悪い点」「漁業を取り巻く就労環境への思い」などについて、後継者問題の原因の一つである就労環境の改善の端緒となればとの思いから言及してみたい。

4. 研究・実践活動状況及び成果（効果）

本題に入る前に、今の操業内容を簡単に説明する。

まず、図1に富山湾奥部に位置する新湊の定置網漁場を示す。新湊漁協における定置網

経営体は、11経営体あり、大型定置網が16ヶ統ある。私が従事している定置網の位置は、漁港から北西方向に約5kmのところにある。

まだ真っ暗な夜中の2時に港を出発し、漁場には約20分で到着する。到着後ただちに網揚げに取り掛り、網揚げには約1時間を要する。魚の獲れ具合にもよるが、網に入った魚を捕り揚げるのに1～2時間ほどを要する。競りの始まる時間は5時30分からなので、その前には漁港に到着し、魚種を選別し魚を並べる。

私は、魚を網から揚げる時が、1日の漁師仕事の中で一番好きだ。それは、季節によって違う種類の魚が入ることや、その日によって魚の量が違うことによるのだと思う。また、獲れた魚の選別がまた楽しい。その日獲れたばかりの一番新しい魚を自分の手で触れる楽しさや、網の中で魚がバシャバシャ暴れるのを見ていると疲れがふっとんでしまう。特に、冬場に10kg前後の大型のブリが100本も入ろうものなら、勢いのいいブリを触りたくて触りたくてたまらない。

そんな私も、船に乗った最初のうちは、仕事が分からずに見ているだけの時間が多く、網揚げを手伝うようになってからも船に昔から伝わる流儀にとまどい、やり方が分からず自分でも腹が立つくらいであった。

私は「負ける」とか「人よりも遅れる」「自分に満足がいかない」ということが嫌いなので、まずは、自分にできることは何かと考えてみた。周りを見たとき年輩者が多いということは、知識では負けてしまうけれども、力仕事は絶対に負けないようにしようと思いに決めた。網を引くにも腕で引くのではなく、体でリズムを取り、上体を前ではなく、後ろに反りながら引く、網巻機の間の子を取り、後ろの網ではなく前の網を取るなど、できる人から見るとたったそれだけのことだが、まず私はその仕事が満足にできるように心掛けた。他に網仕事として糸を使った網繕いがあり、私は最初、針も持たせてもらえず網に付いた貝を木槌で落としたりゴミ拾いをしていた。網繕いもできなければ一人前とは言えないので、年上の機関士の方に網繕いの仕方を教わり、家に網地を持ち帰って網繕いの練習をした。そして今では立派に自分で網繕いができるようになっている。

私の職場に限らず、漁業技術は自分の目で見て肌で覚えるものという考え方が漁業では一般的だが、以上の自分の体験から、効率よく漁業技術を習得できるシステムの必要性を痛感している。

漁業者になりたてのころの私にとって、新湊漁協の第一印象は、「若い人のいない年寄りの浜」といったものであった。そんな中、他の定置網に青年漁業者が4人いることを知り、年齢が近く経験も同じく浅い者同士ということで良く言葉を交わすようになった。

私は、氷見市の実家から新湊市まで1年余り通勤していたが、自分自身の中で、もっと地元の仲間たちとの親睦を広げたいという思いにかられ、船着場から5分くらいの所にアパートを借りた。今では、週末になると定置網の従事者、底曳網の仲間、漁協職員達がアパートに集まり、酒などを飲みながら将来の漁業のことなどを語り合っている。

その中で、漁業者の高齢化が話題になったことがある。私も、若者が少ない現状に漠然とした問題意識を抱いていたことから、漁業者の年齢構成を調べてみることにした。

私が乗っている船の従業員は14名で親方と併せて15名で操業を行っている。年齢構成は、60歳以上が9名で全体の60%を占めており、50歳台2名、30～40歳台2名、20歳台は2名となっている。

統計資料(第10次漁業センサス)によって新湊漁協に所属する新湊市と高岡市の漁業者の年齢構成を調べてみた(表1)。すると、60歳以上が60.3%となった。一方、20歳台は3.8%のみであり、就業者の年齢構成が、高齢側に片寄っていることが分かった。私の職場(瀬中網漁業)と、新湊市・高岡市でまとめた漁業者年齢構成の傾向はほとんど同じものであった。このまま若者が漁業という職業に参入してこない、定置網を揚げる人手さえも確保できない状況が生まれるかもしれない。

また、私と同年代の友人の給料を比べてみると、収入的にはあまり差がないように感じるが、福利厚生面などでは不安が残る面もある。しかし、良い風に考えれば、体さえ大切に心掛けていけば体が動く間、漁業に携わっていくことが可能なので、他の職との違いともいえるのではないかとも思える。

年輩の方々には、昔は良く酒を飲んだとか、飲ましてもらったなどという楽しかった話を船の上でされるが、現在では、年齢差があり、付き合いが難しい形になってきているのではないかと思う。しかし、そういう環境であるからこそ、他の船の青年漁業者との交流の必要性が高まってくると思う。幸い、私は多くの人達と交流を持つことができていて、中には内気な人など、交流を持ちたくても持てない人もいないのではないかと思う。その意味でも漁協青年部への参加は、青年漁業者の連携を強める意味において重要であると考えている。

5. 波及効果

「自然を相手にした職業に就きたい」「サラリーマンはいやだ」などといった理由から漁業への就業を希望する若者が増えてきていると思う。しかし、そういう人の多くが、漁業を経験したくてもできない、またどうすれば漁業者になれるのか分かりにくい環境にあると思う。

そういった人たちに漁業について理解してもらい必要性を感じ、自分の体験談を後輩に話して漁業に就業してもらいなど、若い漁業者が増えるよう私なりに努力しており、今後もそういう機会を積極的に設けていきたい。

6. 今後の課題や計画と問題点

今後の課題としては、若者が漁業に携わりやすい環境や雰囲気を作るために、我々青年漁業者を含めた漁業界全体が本気で取り組むことが大切だと思う。例えば、若い漁業者が定着しやすく働きがいのある就労環境づくり(福利厚生・給与体制など)をみんなで考えていくことが必要だろうし、深夜から早朝に及ぶ操業時間や休暇体制のあり方などの問題についても真剣に解決策を考えなければ、後継者問題はいつまでたっても解決しないと思う。

ただ、これらの問題は、魚価の低迷や漁獲減少等による漁業経営の現状が反映されている面もある。その意味で、漁獲物の鮮度保持や出荷方法等を研究するなど、少しでも付加価値を高めて魚価の向上を図ることが、自分たちの就労環境の改善にもつながることを、経営者だけでなく私たち漁業従事者自身が認識し、実践につなげることが必要であろう。

そのためにも、優れた漁業技術や良い習慣などを継承する一方で、時流の変化に柔軟に対応できる知識と行動力を漁協青年部活動等を通じて身につけ、活気と魅力にあふれる漁業を創造していきたい。

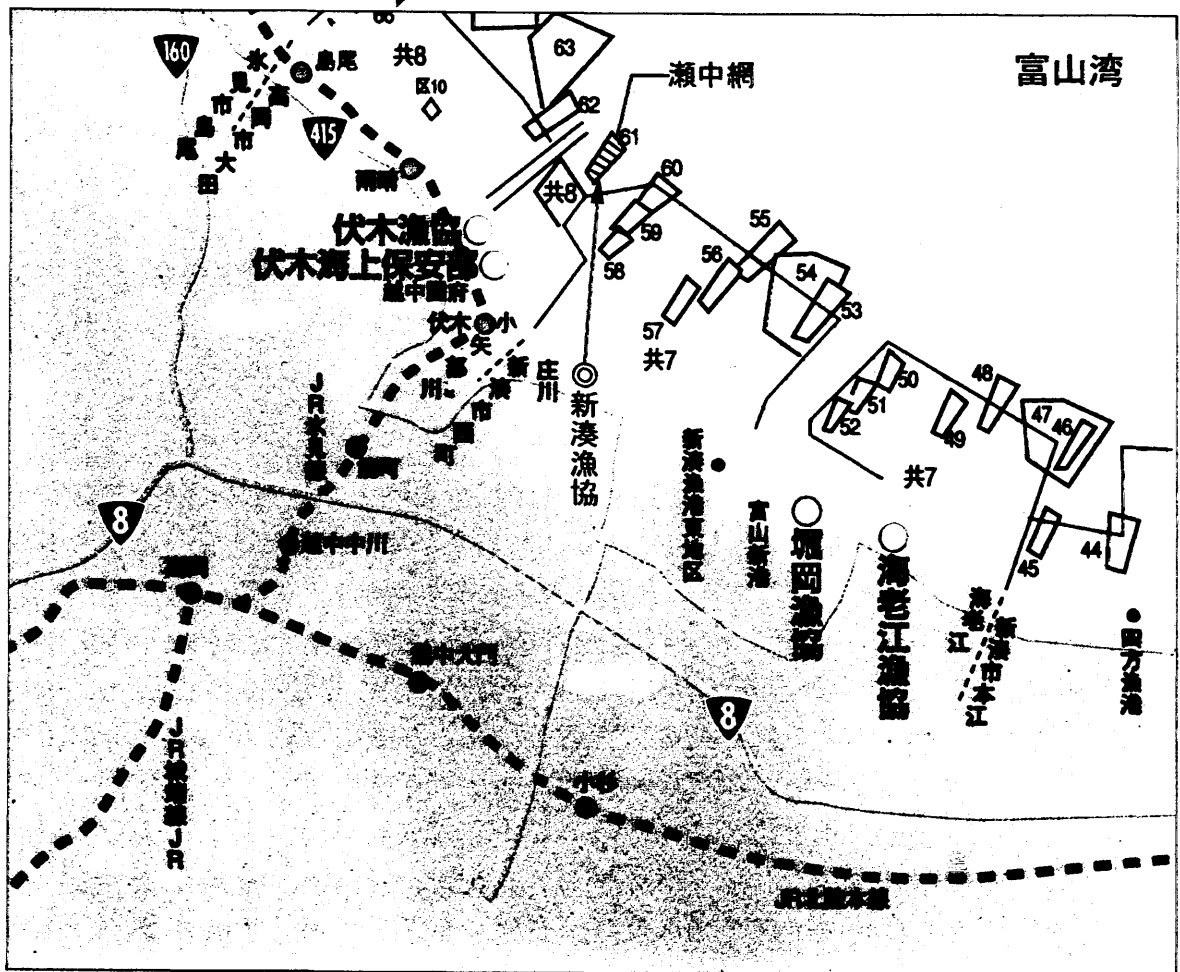


図1 新湊漁協における定置網漁場位置

表1 私の職場と全国・富山県・新湊市と高岡市の漁業者との年齢組成の比較

年齢	19歳 以下	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上	合計
全国の 漁業者 (1998年)	1,640人 0.7%	13,285人 5.8%	24,081人 10.4%	43,217人 18.7%	50,990人 22.1%	97,386人 42.2%	230,599人 100.0%
富山県の 漁業者 (1998年)	2人 0.1%	52人 2.9%	82人 4.6%	208人 11.8%	389人 22.0%	1,033人 58.5%	1,766人 100.0%
新湊市と 高岡市の 漁業者 (1998年)	1人 0.3%	14人 3.8%	17人 4.7%	37人 10.1%	76人 20.8%	220人 60.3%	365人 100.0%
私の職場	0人 0.0%	2人 13.3%	1人 6.7%	1人 6.7%	2人 13.3%	9人 60.0%	15人 100.0%

(第10次漁業センサス)

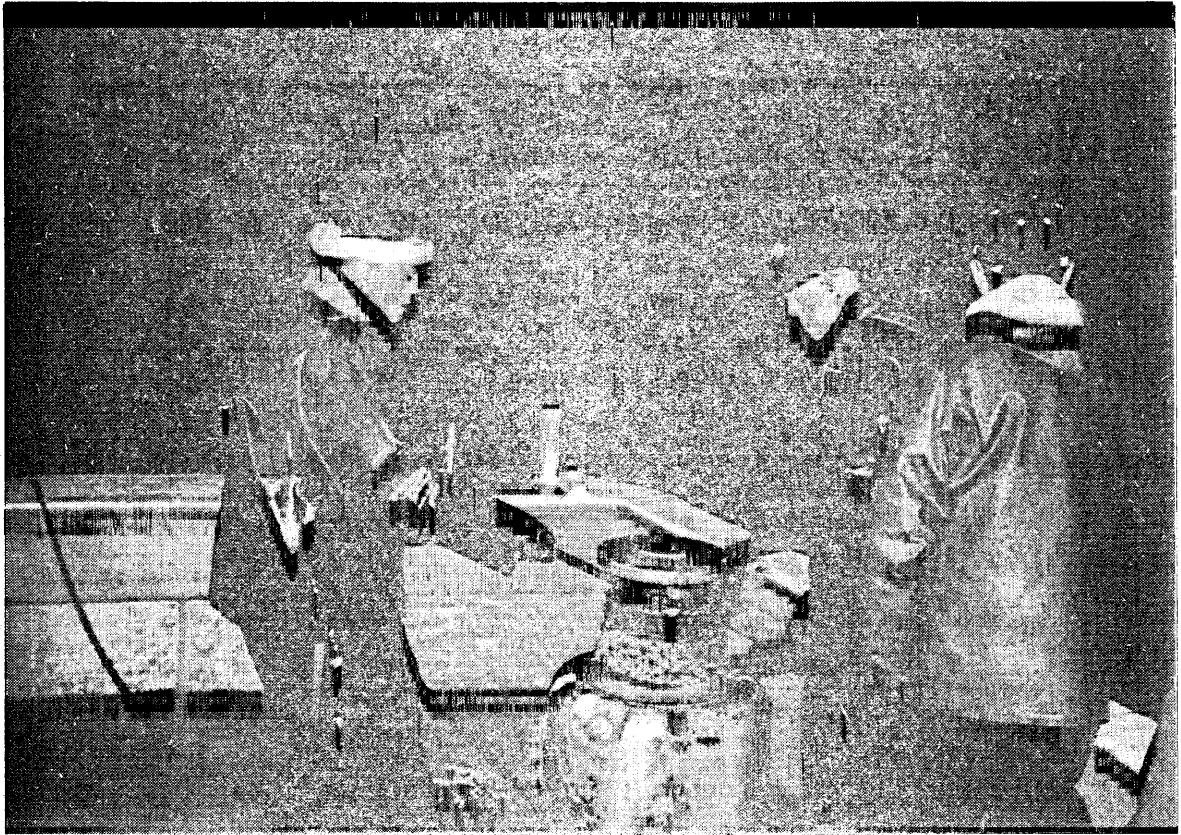


写真1：揚網作業

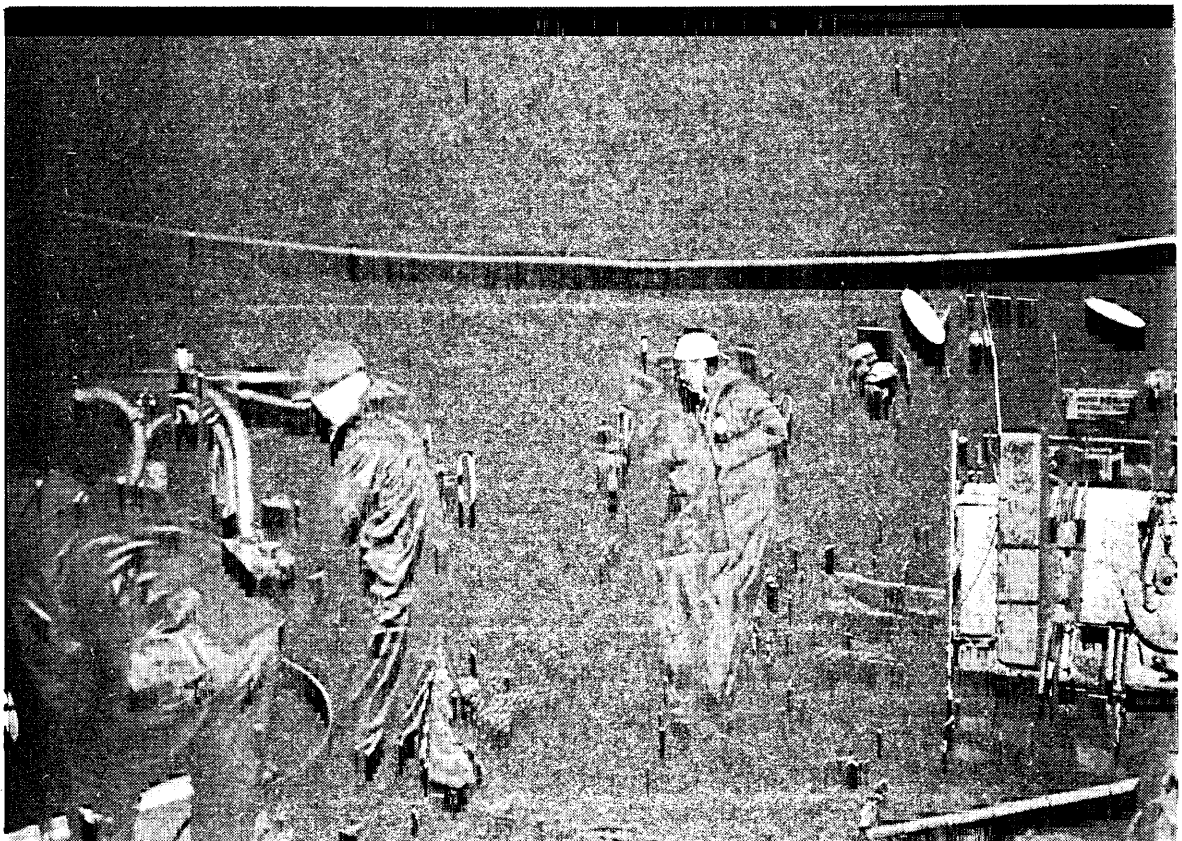


写真2：揚網作業



写真3：揚網作業



写真4：選別作業